

2016年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/欧州泌尿器科学会 (EAU) 交流プログラム

2016 JUA/EU Resident Programme 参加報告

飯田 啓太郎 (名古屋市大)

この度私は、2016/3/11~15 ドイツのミュンヘンで行われました31th annual EAU congressに、The JUA/EU Resident Programmeの一環として参加させていただきました。今までに海外学会に参加した経験はありませんでしたが、EAU congressには参加したことはありませんでした。私が興味を持っている膀胱癌の薬物治療に関して、ヨーロッパはアメリカとも少し異なった治療戦略をとっており、以前より一度ヨーロッパでの生の声を聞いてみたいと思っていたため、今回非常に楽しみにしておりました。日本では少しずつ春を感じるようになってきた気候でしたが、ミュンヘンでは再度冬に戻ったかのようで、最終日には雪が舞っておりました。

Resident Programmeの主な概要としては、Joint session of EAU/JUAならびにOpening ceremonyへの参加、Resident dinnerへの招待があり、その他は自由行動となっております。Joint session of EAU/JUAでは、CRPCの治療や腎癌の薬物療法などのトピックについて、EAU/JUA両国々からpresentationし見識を深め合うものでした。Opening ceremonyではEAUの名誉会員のスピーチや各受賞式が行われておりました。Resident dinnerは、ESU (European School of Urology)のresidentが100名程参加している中に、招待されました。

またESU courseも興味があり受講しました。様々な分野のプログラムがありどれを受講しようか迷いましたが、現在難治性精巣腫瘍で治療方針に難渋している患者を担当していたこともあって、精巣腫瘍のプログラムを受講しました。ESU courseは、日本泌尿器科学会総会の卒後研修プログラムに相当するものです。私が受講したコースは40~50人を対象としており、日本の卒後研修プログラムと比べて少人数制でした。講義の途中でも受講者はいつでも質問することができるなど、講演者と受講者の距離が近く、より深く議論することができていたと思いました。

3/14には自身のポスター発表も行いました。膀胱癌における新規化学療法のセッションで、現在トピックとなっているatezolizumab (抗PD-L1抗体) やalisertib (オーロラキナーゼA TKI) のphase II試験が注目を集めていました。座長の一人はMVAC療法で有名なSternberg先生であり、発表時には直接御質問をいただき、

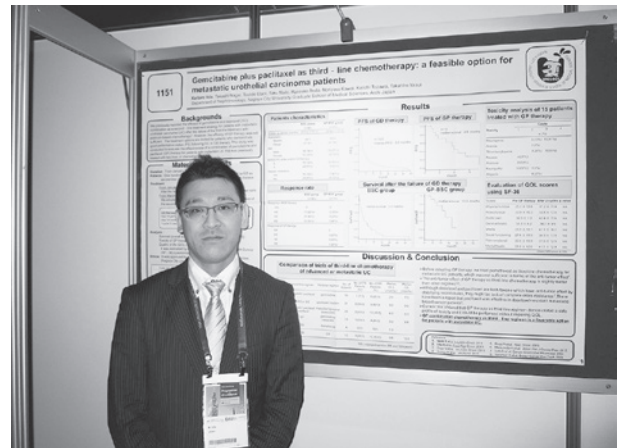


写真1 ポスター前にて



写真2 ポスター発表にて。座長はSternberg先生。

前向きな議論をすることができました。さらに発表後には“Good work”と笑顔で返していただいたのが非常に嬉しく自信にもつながりました。

本プログラムを通して、二つの貴重な経験をいたしました。一つ目は、欧州における泌尿器科のトレンドをいち早く肌で感じる事ができたことです。自身の発表や討論を通して、様々な国々の方と交流し見聞を広めることもできました。二つ目は、本プログラムに参加した先生方と交流できたことです。これまで他大学の同世代の

泌尿器科医との交流がほとんどありませんでした。本学会期間中三人で食事に行くことが多々あり、臨床や研究ばかりでなくプライベートなことまで語り合いました。自分には足りない点を自覚することができ、今後のキャリアを進めていく上で大変良い刺激になりました。また

異国の地で共に過ごす特別な絆のようなものができ、今後もこの縁を大切にしていきたいと思えます。

このような貴重な機会を与えていただいた日本泌尿器科学会 理事長 藤澤正人教授、国際委員長 颯川 晋教授ならびに関係各位の皆様に重ねて御礼申し上げます。